

菊地氏が110周年実行委員長に就任 記念式典は日本祭り会場で開催予定



説明を行う菊地実行委員長

サンパウロ日伯援護協会の前会長を務めた菊地義治氏がこのほど、日本移民110周年実行委員会の委員長に就任した。23日に開かれたブラジル日本都道府県人会連合会(山田康夫会長)の代表者会議を訪れ、あいさつ及び記念式典概要を説明した。

あいさつに立った菊地委員長は、記念式典を来年の日本祭り会場でやることを予定していると明かし、県人会長らからの理解を求めた。「皆さんにはなぜ、日本祭りでやるのかという疑問があると思う」と切り出し、「世界最大の日系イベントに成長した日本祭りで式典をやるのが、日系社会と県人会双方に良いと思った」と理由を話した。

加えて、ジャパンハウスの継続をアピールする点や2020年に控える東京五輪の宣伝など、多方面に効果があると説明。さらに、来年は県人会の周年行事も多いことを挙げ、該当県の物産展などを行い、日本食を広めることができる可能性もあるとした。

経済面では県連には頼らないと話し、援協が行っている協力券を販売するやり方での車の提供をお願いしたいと申し出た。また、式典に関してはブラデスコ銀行からの資金提供を打診するとした。

皇族の参加に関しては「来年はエクアドルの日本人移民100周年に参加されるため、こちらの式典参加は難しいと思う」とし、その代わりに地方を訪れてもらいたいと考えていると話した。

菊地委員長は「日系社会の活性化と将来を見据えて、日本祭りでの式典開催を皆さんに許可してもらいたい」と県人会長らに訴え、今後の各都道府県訪問の協力を仰ぎ、「最終的な目標はブラジル社会を良くすること」と話すと会場からは大きな拍手が起き、「私は必ず成功させます」と断言した。

戦後移住 60 周年式典の実行委員長を務めた秋田県人会の川合昭会長は「日本からの来賓が来るだけで式典の費用が賄えた。日本から人が来るだけで大きなお金が動く。どれだけ日本人を動かせるかだと思う」と自らの経験を踏まえ、考えを述べた。

2017 年 2 月 28 日付